

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

R2年度 放課後等デイサービス クリーク西京

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|-------------|----|---|----|---------------|-----|---|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | ○ | | | 学習支援のスペース・創作活動のスペースと児童がプログラムに取り組みやすいように環境設定を適切に行っている |
| | 2 | 職員の配置数は適切であるか | ○ | | | 児童指導員2名、保育士1名を常勤配置している臨床心理士3名の専門職種の配置も行っている |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | | ○ | | 活動スペースに段差などはなく、階段・トイレには手すりを設置しているが、トイレの入り口に構造上10cmの段差がある他、車いすでの利用は想定していない |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | ○ | | | 事業所向け評価表を用い、頂いた保護者の意見を反映した業務改善案の確認を職員が行っている |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | ○ | | | アンケート調査を反映して創った会報をクリーク通信として発行し、特に情報共有を密にしたい事柄を掲載・公開している |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | | HPでは結果などを公表し、会報では頂いた疑問点について詳しく掲載している |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | ○ | | | 社会福祉学の学識者の見学を受け入れ、改善点などのご意見を頂いている |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | ○ | | | 虐待防止研修や人権擁護研修、感染症対策研修等を行い、出席できなかった非常勤職員にも個別に研修することを徹底している |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | 保護者や学校からの聞き取りや心理アセスメントは全児童に行っており、活動時の観察や職員のカンファレンスを踏まえて計画を作成している |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | ○ | | | 臨床心理士が、全件実施を行った。一度行ってから時間が経過した児童については、様子を見て再度適切なアセスメントを行っている |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | ○ | | | ミーティングで日案、週案、月案を確認してプログラムを組んでいる |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | ○ | | | 新しく運動のトレーニングやパソコンやタブレットといった情報機器を使った学習、英語学習を始めた。季節の催し物も行っている |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | ○ | | | 長期休暇では、夏休みの宿題を中心に学習を行ったり、普段はできないSST等も行っているが、今年度は社会科見学は出来なかった |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | モニタリングや振り返りを通じて職員間で話し合い どうやって関わっていくか、何を課題とするのか計画している |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | ○ | | | 毎朝、一日の流れと課題全般の確認を行い、支援開始前にも細かい打合せを職員間で行っている |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | ○ | | | 支援終了後に、利用児童全ての振り返りを職員ミーティングで行っている |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | ○ | | | サービス提供記録に加え、ミーティングでは利用児童の毎回の活動記録を取っている |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|--|--|
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | ○ | | 6か月に一度、状況の変化を踏まえて個別支援計画の見直しを行っている | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか | ○ | | 集団プログラムや学習支援、創作活動、余暇活動等を組み合わせた支援を行っている。他にも調理、情報、運動、英語プログラムを行っている | |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | | ○ | 機会があれば、心理士が適宜参加する | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | ○ | | 年間予定や1週間のスケジュールは保護者に協力していただき把握している、連絡調整も学校や保護者と適宜連絡を取り合っている | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | | ○ | 医療的ケアを必要としている児童が現状いない | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | ○ | | 引継ぎが行えるケースについては、心理士がしっかりと行っている | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | | ○ | まだ、移行したケースがないので機会が来れば管理者と心理士が対応する | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | | ○ | 研修の機会があれば適宜参加しており、頂いた資料を元に職員で研修も行っている | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | | | ○ | 過去、長期休みに参加したが、学童の大人数と活動・交流することは利用児童には難しく、利用児童の戸惑いが大きかったので、いまのところ交流を見合わせている |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | ○ | | 出来る限り職員が参加するようにしているので、今年度も開催された自立支援協議会や子育て支援連絡会には欠かさず参加している | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | ○ | | 提供記録でのやり取りや直接の面談、電話で連絡しており、毎回の送迎時にも直接その日の様子を報告している | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | ○ | | 家庭内での児童との関わり方の相談が寄せられ、定期的に面談を行ったケースがあり、何かあればご相談を受け付けていることは周知徹底している | |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | ○ | | 契約時に、インフォームドコンセントが得られるように時間をかけて丁寧に説明している、また内容について不明な点があれば再度説明するようにしている | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | ○ | | 児童の状況が変化し保護者の方から悩みが寄せられることもあり、面談や電話で必要な支援を実施している | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | | ○ | 保護者向け評価表からも、実施についてご意見を頂いたが、利用児童の内何名かは障害を公表していないこともあり、開催は難しいと考えている |

| | | | | | | |
|---------|----|---|---|--|---|---|
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | ○ | | | 管理者が担うことを事業所内で掲示し、契約時にも伝えており、会報でも取り上げている。アンケートでは「どちらともいえない」が4件あったので周知徹底と苦情への対応について職員間で協議したい |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | ○ | | | クレーク通信で活動報告を行っている、個別に保護者へメモや手紙、電話でのやり取りで情報共有を行うことも多い |
| | 35 | 個人情報に十分注意しているか | ○ | | | 施錠できるロッカーに記録類を保管している。また、個人情報保護研修も行っている |
| | 36 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | ○ | | | PECSなどを用いて、意思疎通がしやすい体制を取っている |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | | | ○ | 業務の性質上、地域に開放する行事などは行っていない |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | | | ○ | 職員にはマニュアルを用いて、定期的に周知しており保護者には契約時に詳しく説明を行い会報でも伝えしたが、いいえの方が居られるので再度発信したい |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | ○ | | | 年に2回は避難訓練を実施している |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | ○ | | | 定期的な虐待防止研修を行っており、京都市の開催する施設従事者向け研修にも参加している |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | | | ○ | 身体拘束を行うケースがないが、人権擁護研修の際には身体拘束について職員には周知している |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | | | ○ | 利用児童のアレルギーを把握した上でおやつなどを提供している体制を用意しているが、利用児童にアレルギーがないので特に対応もない |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | ○ | | | 事例集を作成し、ファイリングしている |